

2024年度 学校事業計画評価書

聖隷クリストファー中・高等学校

▶分掌に係る項目の「評価」及び「分析・達成状況」への記入をお願いします。評価の指標は以下の通りです。

A (十分に成果があった) B (成果があった) C (少し成果があった) D (成果がなかった、取組みできなかった)

I 目指す学校像

(1) スクール・ミッション(教育目標)

本校は、キリスト教主義に基づく教育を行っている学校です。「神様からいただいた命を、誰かのために役立てる」という奉仕の心がキリスト教育の根幹となります。ですから、他者への思いやりや規律を重んじた教育を行い、社会に出てからも、人のために役立つ仕事をすることができる人材を育てることを目標にしています。

(2) ① スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
1. 建学の精神である「隣人愛」と豊かな教養に基づき、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動することができる。 2. 習得した知識や技能を活用して、課題を発見し、その解決に向けて価値を創造しようとするリーダーシップを発揮する 3. 様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身に付けている。 4. 地域社会・国際社会のニーズを捉え、使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 5. ありのままの自分を受け容れる(自己受容)ことができる。	1. 学習意欲を高め、確かな学力を養う主体的な学びを行う。(振り返り学習、質問机(職員室前の廊下)小論クライミング、聖隷プロジェクト(高大連携)) 2. キリスト教精神に基づく「隣人愛」を深く理解し、建学の理念と精神の育成に関わる学校設定科目を置く。(礼拝、特別礼拝、宗教、労作) 3. 国際社会に関心を深め、国際感覚及び語学力・表現力を養う。(英語イメージン授業、オンライン英会話、グローバル教育講習、海外留学、国際交流) 4. 学校行事、部活動、キャリア教育(Locus)等を通して、個々の資質・能力を磨く。	1. 自主性を育て、自己肯定感を高めながらも、自分も他者も幸せにできる力を付けることに取り組む生徒 2. 医療人材育成に 向けたプログラム等や海外短期留学等に積極的に参加し、自己の可能性を高めることができる生徒 3. 学習のみならず学校行事、部活動及び生徒会活動等に積極的に取り組むことができる生徒 4. 礼拝や労作を通して、命の大切さ他者へのかかわり、心豊かな生き方を養いたい生徒 5. 自ら未来を切り拓く確かな学力としなやかな人間力を身に付けて、社会に求められるリーダーを目指す生徒

② 目標具現化の柱

- ア 学校経営の安定化を図り、健全な学校経営を維持することで、充実した教育を提供する。
- イ 教職員の資質能力および業務の効率化と多忙化の解消を図る。
- ウ 基本的生活習慣を確立させ、学校の教育活動全体の活性化を図る。
- エ 基礎学力の定着を図るとともに、進路目標の実現に向け、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- オ 建学の精神を体得し、豊かな人間性や社会性を育成する。
- カ 安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成する。
- キ 教育活動全体を通じたキャリア教育を推進する。
- ク 信頼される学校となるために、本校の情報を積極的に発信する。

2 本年度の取組(重点目標は太字で表記)

中高一貫コース

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	分 析 ・ 達成状況	評価	達成状況
ア	安定した学校運営	中学校40人以上、2クラス確保、高等学校定員以上。 パンフレットなどの工夫を行い、特色について広報活動を行う。 転退学者、中学校0人、高等学校2%以内。	入試広報 総務 各学年 各教員	中学 D 高校 B 転退学 A	中学校入学予定者は26人。中高一貫の魅力の伝達、塾へのアプローチなど不十分であった。高等学校募集は現在、単願者と内進生268人で定員前後を確保できる予想である。中学の転退学者は0人、高校の転退学者は5人(0.5%)で、ともに目標をクリアした。	中学 D 高校 B 転退学 A	評価は妥当と思える。
		中学のクラス経営案の中に具体的方策を必ず5つ書かせる。 内進生の英数科進学数を生徒在籍数の60%以上にする。 2025年度の英数科入学生(定員94人)60人以上を目指す。	入試広報 中学校担当教員 英数科	C	英数科の募集状況は昨年度と同水準である。60人以上は難しい状況である。 内進生に対して英数科長が英数科説明を行っているが、現在、中3の英数科希望は15人(41%)という状況である。	C	評価は妥当と思える。
		ICU、関西学院、明治学院、関東学院に提携依頼と増数依頼を行う。更に新規として、同志社、上智、明治、立命館への指定校依頼を行う。 推薦入試の大幅な改変を行う。	管理職 進路指導	B	10大学(青山学院・上智・早稲田・立教・東京都市・ICU・立教・関西学院・関西・南山)に訪問し、入試担当者から指定校枠の決定プロセス、各大学の学校推薦型選抜の入試状況など実情を知ることができた。また、併設校とは連携を深めるべく対話を続けている。	B	評価は妥当と思える。

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	分 析 ・ 達成状況	評価	達成状況
イ	教職員の資質向上 および業務の効率 化と多忙化の解消を 図る。	各教科全員２回以上の授業 参観を実施する。また、他教 科の授業を２回以上参観す る。両方ともにできたと答え る教員100%。	研修 各教科 全教員	A	達成状況は100パーセント。6月の授業公開 週間は授業見学と研究授業日の設定のバラ ンス良く、先生方が授業改善に向けて取り組 みやすい時期であった。その反面、11月の設 定は検討の余地がある。いずれにしても先生 方が授業について考える交流の機会として定 着しつつある。	A	評価は妥当と思える。
		担当教科全員と担当教科以 外の者が関わり、チェック項 目に従い、ミスなく行うこと ができたと答える教員100 %。	管理職 入試担当 教科	A	教科内でのチェックの後、各教科代表者2人 で再度校正し、他教科の目線で問題の受け 止め方や見やすさなど確認共有した。	A	評価は妥当と思える。
		各学年・分掌で業務改善・軽 減に「取り組むことができ た」と答える教員60%以上 。 生徒と向き合う時間、80% 以上	全教員	B	業務の軽減に取り組めたとする教員は半数 強、生徒と向き合う時間が増えたと答える教 員は6割程度であった。業務が多岐に渡る中 各自、各部署の努力の跡が見られる。	B	評価は妥当と思える。

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	分 析 ・ 達成状況	評価	達成状況
ウ	基本的な生活習慣を確立させる。	「さわやかな挨拶ができ、身だしなみに気を付けている」と答える生徒90%以上。 「校則やマナーを守っている」と答える生徒90%以上。 「提出物の期限厳守や与えられた役割を責任もって果たしている」と答える生徒80%以上。 以上のことをしっかりと行動できるよう指導している教員100% 委員会活動をしっかり行うことができた生徒・教員90%以上。	生徒指導 各学年	B	91.7%の生徒が挨拶を心掛け、97.3%の生徒が身だしなみを意識して生活していると答えている。また、97.6%の生徒が校則やマナーを守って生活していると答えており、昨年度と比較すると上がっている。委員会活動に対して役割を果たしていると答えている生徒は91.8%になり昨年より10%以上も増えている。実際に朝、玄関ホールに立ったり、授業なども含めて観察しているが、挨拶や身だしなみを意識した生徒が増えているようだ。	B	評価は妥当と思える。
		生徒・職員に対して講習会を中学2回、高1を1回以上行う。 ネット依存調査を1回以上行う。 「情報モラルに注意している」と答える生徒100%。	生徒指導	B	講習会や調査を行うことで生徒のネットの使い方の意識を高め、98.5%が情報モラルに注意していると答えている。ネットに関しては大きな問題に発展する可能性があり、西遠地区生徒指導研究協議会などから良い考えがないか検討していきたい。	B	評価は妥当と思える。
		毎朝タブレットにて回答100%。 「欠席・遅刻・早退をしないように努力している」と答える生徒90%以上。 毎日朝食摂取95%以上。睡眠時間6時間確保60%以上。	全教員 保健	B	毎朝のタブレットの回答は85%以上。今年度は各HRごとの回答人数と割合を定期的に教員に報告した。毎日の朝食摂取率は中高ともに90%以上。睡眠時間6時間以上確保は中学85%、高校75.7%。アンケートの集計結果から1・2月の保健だよりにて保健委員長に作成の指導をする予定である。	B	評価は妥当と思える。

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	分 析 ・ 達成状況	評価	達成状況
エ	基礎学力の定着を図るとともに、進路目標の実現に向け、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。	「興味・関心や意欲を高める授業がタブレットを用いて行われている」と答える生徒80%以上。 「授業の内容がよく分かる」と答える生徒80%以上。	教務 各教科	B	各教科レベルで様々な取り組み、効果的な活用の仕方などが研究されている。生徒対象のアンケートでは、興味・関心や意欲を高める授業がタブレットを用いて行われていると回答した生徒7は68%、授業の内容がよく分かると回答した生徒は87%であった。	B	評価は妥当と思える。
		教科会等を利用して、授業内容、進度、レベル当の教員間の差違について、生徒・保護者からの不満の声がなくなるよう、授業改善に取り組む教員が90%以上。 「続けて授業を受けたい」と答える生徒が70%以上とする。	教務 各教科	A	どの教科でも担当者間で進度や授業内容についての定期的な話し合いを持てた。「授業改善に取り組めた」と回答した教員は85%であった。「続けて授業を受けたい」と回答した生徒は88%との結果であった。	A	評価は妥当と思える。
		「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と答える生徒が90%以上。	進路指導 各学年 各教科	A	中学では「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」と回答した生徒が88.2%。「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と回答した生徒が89.1%であった。高校でもそれぞれ88.2%、89%という数値であった。進路実現に向けて、各教科とも受験校に沿った対策を立て、問題演習、面接、ディベート、小論文添削などを概ね行うことができた。	A	評価は妥当と思える。

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	分 析 ・ 達 成 状 況	評価	達 成 状 況
オ	建学の精神を体得し、豊かな人間性や社会性を育成する。	「先生方は、礼拝・HRや授業にて建学の精神や教育方針を分かりやすく伝えている」と答える生徒90%以上。	各教職員 宗教	A	中高合わせて94.8%が見学の精神や教育方針を分かりやすく伝えていると回答している。先生方が礼拝やHR、授業、学年集会等で、建学の精神である隣人愛という言葉を用いていることが理由だと思われる。これを良い伝統として継続し、諸行事の充実や、聖隷の歴史への理解を深めていきたい。	A	評価は妥当と思える。
		聖隷クリストファー生が地域社会の担い手であるという自覚を持ち、自ら地域と関わることで、「『隣人愛』の意識が高まることができた」と答える生徒が90%以上。	労作 各担任	B	「聖隷クリストファー生が地域社会の担い手であるという自覚を持ち、自ら地域と関わることで、『隣人愛』の意識が高まることができた」と答える生徒が87.2%であった。	B	評価は妥当と思える。
		「ボランティア活動、体験学習、生徒会活動等地域と連携した（地域に貢献した）活動に参加した」と答える生徒 80%以上。	生徒指導 生徒会 労作 各部活動	B	地域活動に参加出来た生徒が60%と昨年度より、20%増えた。増加傾向となった原因のひとつには部活動における地域のイベント参加やボランティア活動参加等が挙げられる。今後も地域に貢献できる生徒の育成に力を入れていきたい。	B	評価は妥当と思える。

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	分 析 ・ 達成状況	評価	達成状況
カ	安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成する。	高校生のヘルメットの着用率を 10%上げるための活動を行う。 交通法規を守っていると答える生徒90%以上。 前年比、年間事故件数を2割減。苦情件数を半減	生徒指導	B	98.8%の生徒が交通ルールを守って生活していると回答。前年比の年間事故件数は半減、苦情の件数も10件未満と改善傾向である。参加型交通安全教室も意識の向上につながったようだ。ヘルメット着用の推進方法については検討の余地を残している。	B	近隣地域で自転車と自動車の重大事故が発生しており、今まで以上に自転車マナーについて注意喚起をしていただきたい。
		ケース会議を行事に組み込み、定期的に行う。保健室登校、不登校の生徒に対する対応を行い、指導をする教員100%。	生徒支援 保健 各教員	A	保健室とカウンセラーとの意見交換を毎週実施し、カウンセラーまたは養護教諭と学年の関係教員との連携を図ることができた。定期的にケース会議を開催し、情報交換と対処方法について話し合い連携できた。概ね100%の教員がこのことに取り組むことができた。	A	評価は妥当と思える。
		支援対象生徒の状況、支援方針や支援計画等の情報をカルテに書き込み、共有する教員100%。	生徒支援	A	概ね全職員が必要に応じ教務システムへの生徒情報を書き込み、関係各所と連携を取ることができた。	A	評価は妥当と思える。
		避難先や避難経路を把握していると答える生徒85%以上。 地域防災訓練への参加率70%以上の達成。	渉外	B	年2回の避難訓練の実施により、95%を超える生徒が避難先・避難経路を把握している。地域防災訓練に関しては、「実施日が定まっていない。」「中・高生の参加不可」などの理由により参加率が上がらない。	B	評価は妥当と思える。

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	分 析 ・ 達成状況	評価	達成状況
キ	教育活動全体を通じたキャリア教育を推進する。	「自分の将来の生き方（進路等）について（担任や他の教員からアドバイスを受けて）考えている」と答える生徒90%以上。	進路指導 各学年 中学部	B	「自分の将来の生き方（進路等）について（担任や他の教員からアドバイスを受けて）考えている」と回答した生徒は88.6%。研修旅行や探究活動、担任との面談、進路行事などを通して将来について考える機会を持つことができた。今後もそのような機会を充実させていきたい。	B	評価は妥当と思える。
		進路希望分野の探究活動を行い、「読解力及び論述力を身に付けることができた」生徒85%以上。	進路指導	B	進路希望分野の探究活動を行い、「読解力及び論述力を身に付けることができた」と解答する生徒が85%。LHRを使い、探究活動を実施している。今後も継続していきたい。	B	評価は妥当と思える。
		医療系への進学希望者が、この領域の「仕事について理解することができた」と答える生徒90%以上 聖隷プロジェクトの発展的改善を図り、大学入学後の講座等の単位認定を目指す。	進路指導 聖隷P	B	「医療系の領域の仕事について理解することができた。」と回答した生徒は64.6%で不調であった。医療系希望者で聖隷プロジェクトに参加する生徒は増えてきたがまだまだ限定的であることが要因の一つかもしれない。現在、大学との接続がより一層強固となるよう大学側と対話を続けている。併せて今年度から入学者の学力を担保すべくウェブでの入学前教育を始めている。	B	評価は妥当と思える。

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	分 析 ・ 達成状況	評価	達成状況
ク	信頼される学校となるために、本校の情報を積極的に発信する。	ホームページの更新回数、行事ごとに100%。 新聞掲載の回数年10回以上。 小・中・地域へのPR年2回以上。	入試広報 総務	B	総務部と連携して、学校の様子をタイムリーに伝えることができた。また、年末より生徒会がSNSを利用して教員や本校の様子を発信することができた。	B	評価は妥当と思える。
		「家庭への連絡や情報提供が適切に行われている」と答える保護者が90%以上。	管理職 総務	B	概ね必要に応じて適宜メール発信できている。	B	評価は妥当と思える。

【2024年度の取り組み】（重点目標は太字体で記載）

グローバルスクールコース

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	分析・達成状況	評価	意見
①	安定した学校運営	入学者30人	入試広報 全教員 総務部	D	広報イベント・説明会等を行ったが、入学見込み者数は内進・外進合わせて14人となり、1クラス30人の想定を大きく下回る結果となった。	D	10年後、20年後を見据えたグローバル教育を行っていることに自信を持ち、現在の生徒の成長を発信していくと良い。
②	特徴ある教育の充実を図る	「建学の精神への理解が深まった」と答える教員80%	管理職 宗教	B	60%の教員が「強くそう思う」と回答し、40%の教員が「そう思う」と回答した。毎朝の礼拝の内容を担当教員が協力して計画することができた。	B	評価は妥当と思える。
		「建学の精神への理解が深まった」と答える生徒80%	宗教 生徒指導	C	5%の生徒が「強くそう思う」と回答し、67.5%の生徒が「そう思う」と回答した。次年度以降も学校生活のあらゆる場面で生徒が建学の精神が学べる機会を設けていきたい。	C	評価は妥当と思える。
		「GSCの英語イマージョンにより英語力が向上した」と答える生徒80%以上	全教員	A	35%の生徒が「強くそう思う」と回答し、55%の生徒が「そう思う」と回答した。ほとんどの生徒が英語イマージョン教育の成果を実感できている。	A	評価は妥当と思える。
		「学習スキルを意識して学習に取り組んでいる」と答える生徒80%以上	IB教育	B	5%の生徒が「強くそう思う」と回答し、77.5%の生徒が「そう思う」と回答した。GSCが明示している学習スキルをかなり意識できてきている。	B	評価は妥当と思える。
		「探究型の教育を理解・実践できた」と答える教員100%	IB教育	C	60%の教員が「強くそう思う」と回答し、40%の教員が「そう思う」と回答した。結果の数値は高いが、GSCの目指す探求型の授業の実施にはまだまだ改善の余地がある。	B	達成状況から見て、B評価が妥当と思える。
		国際バカロレア・ディプロマプログラム認定校申請書類の提出	IBコーディネーター・管理職	B	認定校申請書類を2月に提出し、不備なく受理された。次年度7月頃に認定に向けた訪問審査が行われる予定となっている。	B	評価は妥当と思える。

	取 組 目 標	成 果 目 標	担当部署	自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価	
				評価	分析・達成状況	評価	意見
③	安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成する。	発達支援に関する研修が生徒支援に役立ったと答える教員80%以上	管理職 生徒支援	B	40%の教員が「強くそう思う」と回答し、60%の教員が「そう思う」と回答した。スクールカウンセラーから専門的知見に基づくアドバイスを受けることができた。	B	評価は妥当と思える。
		生徒の問題を早期に発見し支援することできたと答える教員80%以上	全教員	C	20%の教員が「強くそう思う」と回答し、60%の教員が「そう思う」と回答した。事案の中には、今後、対応の改善を図らなければならないものも含まれている。	B	達成状況から見て、B評価が妥当と思える。
		カウンセラーと連携し個に応じた指導・支援ができたと答える教員80%以上	管理職 生徒支援	B	40%の教員が「強くそう思う」と回答し、60%の教員が「そう思う」と回答した。スクールカウンセラーを交えてケース会議を行い、生徒支援に役立てることができた。	B	評価は妥当と思える。
		教員間で連携し問題を解決できたと答える教員100%	全教員	B	80%の教員が「強くそう思う」と回答し、20%の教員が「そう思う」と回答した。教員間のチームワークは良いが、仕事量のバランスに課題が残る。	A	達成状況から見て、A評価が妥当と思える。